



副園長日記

R3.9.28

秋晴れの汗ばむ天候のもと、運動会を無事に行うことができました。保護者のみなさまには、参加者の制限、マスクや手袋の着用などいろいろなお願いをしましたが、ご協力いただきましてありがとうございました。

子どもたちは、みんなぴかぴかの笑顔で、すてきな姿をたくさん見せてくれました。当日までの子どもたちの頑張りの様子は、玄関に掲示していたドキュメンテーションでもごらんいただけたのではないのでしょうか。



今回は運動会本番に至るまでの先生たちの奮闘ぶりをお伝えします。

演技の内容が決まるまでには、さまざまな話し合いがなされました。担任は「子どもたちはこんなことをやりたいんじゃない?」「運動会を通じてこんなふうになってほしい」という思いや願いをもって演技を考えていきました。そのアイデアをもとに、みんなで「こんな道具がいいんじゃない」「子どもたちへの

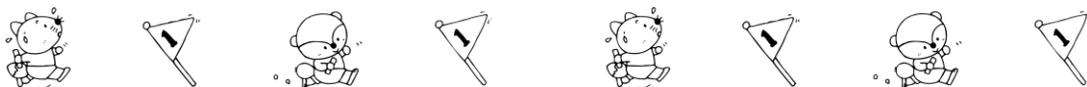


指示は
こう言

ったほうがわかりやすいよ」などアドバイスし合って、さらに高めていきます。真剣に話し合う様子を見て、本当に良い仲間だなと感じました。

話し合った後は、演技に必要な道具作りです。互いに手伝いながら作っていますが、主要な部分には担任の思いがしっかりと込められています。どんな材料がいいのか、どのくらいの大きさ、かたさ、重さがいいのか何度も何度も話し合いながら作り直して毎日遅くまでがんばっていました。その姿を見ていると、「先生たちは仲間であると同時にライバル

どうしてもあるんだな」と思いました。お互いに高め合うことができる、素敵なお先生たちです。



写真を使って遊びの様子を伝えたものをドキュメンテーションといいます。それぞれの学年の発達段階を表す内容で構成するので、学級通信のように全員の姿を載せることはできないのですが、子どもたちの様子が分かりやすく伝わるのではないかと考え、掲示しています。なかなか他の学年のものを見る機会もないと思いますので、少しだけですが、紹介します。

年長児 そらの組は、幼稚園最後の運動会に向けて、一日一日を大切に積み上げていきました。みんなで話し合い、声をかけあって練習している姿を頼もしく感じました。「もう一回練習をやりたい」という子どもたちの声が聞かれた時には、子どもたちの満足感を感じ、先生たちも感動してしまいました。

年中児 にじの組は、子どもたちの「やりたい」という思いがぎゅっとつまった演技構成です。道具を一緒に作っていくことで、子どもたちが運動会を楽しめるように工夫していました。歌にダンスに、障害物走にと練習を重ね、本番が近づくと「がんばるぞ」という意欲が高まっていった子どもたちでした。

年少児 ほしの組は、遊びの中から体を動かす楽しさを感じてほしいと願って日々の活動を考えていました。練習を始めたころには、体力もまだまだ追いつかずにすぐに疲れた様子を見せていましたが、遊びながら練習することで、活動を楽しんでしっかりと足取りで走れるようになりました。

裏面に、ドキュメンテーションを載せていますので、それぞれの学年の特長を比べながら見ていただければと思います。(HPではカットしています。)

